

2026 年国際エキュメニカル平和宣言

正義ある平和の確認

2026 年 9 月 9 日～13 日

キリストの平和があなたがたの心を支配するように。
あなたがたは、この平和のために、一つの体として招かれたのです。
(コロサイの信徒への手紙 3:15)

正義ある平和へのエキュメニカルな呼びかけの刷新

「暴力克服の 10 年」(2001～2010 年)を通じて培われた合意をまとめた「正義ある平和へのエキュメニカルな呼びかけ」(2011 年)から 15 年を経て、世界の諸教会および関連団体の代表である私たちは、韓国キリスト教教会協議会(NCCK)、アジア・キリスト教協議会(CCA)、世界教会協議会(WCC)の招きにより、2026 年 9 月 9 日から 13 日にソウルに集いました。私たちが集ったのは、分断と対立が深まり、軍事化が再燃して軍拡競争が新たに始まり、世界中で紛争が拡大し、さらに経済的不正義が深刻化し、地球規模の気候危機が加速している時代においてです。

私たちは、「正義ある平和へのエキュメニカルな呼びかけ」が示した貴重な知恵を思い起こします。すなわち、戦争は神の御旨に反すると断罪され、いかなる戦争も「聖なるもの」とはみなされ得ないと明確に宣言されています。武力行使を制約する伝統的な「正戦」論から、能動的で持続可能な平和を築くための枠組みへと転換すること、そして「正義ある平和」の四つの主要な次元(共同体における平和、市場における平和、地球との平和、諸民族間の平和)が、明確に提示されています。

しかし、今日の世界の状況を省み、この集いで参加者が分かち合った証言に耳を傾けると、この知恵がいかにわずかしき私たちの国々、共同体、さらには教会の現実に反映されていないかを嘆かざるを得ません。

この会議の開催中も、私たちは、戦争と不正義の暴力が止むことなく続くパレスチナ、戦争の終わりが見えないウクライナの声を聴きました。人権侵害が続くフィリピンの声、スリランカにおける少数民族への抑圧についての声も聴きました。スーダンとコンゴ民主共和国の内戦、コロンビアにおける紛争再燃の脅威、マーシャル諸島をはじめ太平洋全域における核実験の影響についても耳をかたむけました。これらは、世界に存続する武力紛争と構造的・国家的暴力の多様な形態の一部にすぎません。対立するブロックに属する国々の間で政治的緊張が高まり、軍事化が強まっています。AI 搭載兵器システムの戦場への配備や、核戦争の脅威の高まりも、深刻な懸念を呼び起こしています。多くの国々で、キリスト教ナショナリズムを含むイデオロギー的過激主義に煽られた憎悪と差別が蔓延し、さまざまな社会的少数者や周縁化された共同体に苦しみを強めています。

一方、深刻化する気候危機と未曾有の社会経済的不平等は、普通の人々の日常の平和と安全を打ち砕いており、最も脆弱な人々が最も重い負担を負っています。2026 年 8 月にネパールで起きた氷河起因の壊滅的な洪水は、気候変動への寄与が最も少ない共同体が、しばしば最も深刻な損失を被ることを私たちに思い起こさせます。私たちは被災された方々と連帯し、緊急の人道支援、復興と損失・損害のための公正でアクセスしやすい資金、そして気候変動への適応、レジリエンス、早期警戒に向けた国際協力の強化を求めます。

正義ある平和のために働くよう召された世界のエキュメニカル共同体の一員として、私たちはこの召命に生きることができなかったこと、またその責任の一端を担うべきことを、罪として告白します。すべての人が被造物

全体とともに、神の前に兄弟姉妹として平和に生きることを求めるかわりに、私たち自身と私たちが属する集団の生存と利益を何よりも優先する自己中心的な生き方で満足してきたことを告白します。この共有された罪を悔い改め、今日の世界が直面する現実を正面から見据えて、平和をつくる者となる召命を再確認します。また、私たちの教会がしばしば、女性や若者が不在の場で平和を語り、彼らに分断の代償を、その癒やしにおいて声を持たないまま負わせてきたことも告白します。

私たちは、被造物の保全を体現する正義ある平和が、聖書の一貫した証しであり、イエス・キリストによって宣べ伝えられた福音の中心にあると信じます。この信仰に立って、私たちは癒やしと和解の霊性を取り戻し、紛争と暴力に傷ついた世界に癒やしをもたらすというエキュメニカル共同体の責任を果たしたいと願います。

私たちは、暴力と不正義に満ちた世界における真にキリスト教的な召命として、「正義ある平和へのエキュメニカルな呼びかけ」を、その四つの次元すべてにわたって再確認します。それは今、かつてなく切実な意味を持っています。そして私たちは、世界のすべての教会とエキュメニカル・パートナーに、神の前でのこの責任へ立ち返るよう呼びかけます。

聖書的文脈

「キリストはわたしたちの平和である」(エフェソ 2:14)。聖書はこの真理を明確に証ししています。キリストは平和を告げ知らせただけでなく、平和を体現し、それを現実のものとしてくださいました。その生涯、死、復活を通して、キリストは憎しみと敵意の壁を打ち壊し、平和を造り出されました。したがって、キリストを主と告白するとき、私たちはキリスト自身が成し遂げた平和の業を引き継ぐことへの召しに向き合わされるのです。

聖書が証しし、キリスト自身が生きた現実としてくださった平和は、正義ある平和です。人間同士、そして被造物の他の部分と神との間の正しい関係の全体性としてのシャローム(平和)というビジョンは、聖書の証し全体を貫いています。このような平和は、単に戦争がない状態(イザヤ 2:4)をはるかに超えるものです。それは敵意と対立が克服され(イザヤ 11:6～8)、一人ひとりが安全に、恐れなく生の実りを享受できる(ミカ 4:4)平和です。戦争の停止にとどまらず、正義に根ざし、日々の暮らしの織り目の中で現実となる平和です。正義と平和が互いに口づけする(詩編 85:11)この正義ある平和のビジョンから、私たちは今日の世界の現実に向き合い、召されている具体的な課題を見極めます。

世界の状況

私たちは、人権と主権の尊重に基づく国際関係の規則と原則が侵食される一方で、権力の序列によって形づくられる勢力圏が拡大し、覇権争いが激化していることを深く憂慮します。平和共存の原則を放棄した国際秩序は、平時においてさえ軍拡競争を煽るだけでなく、戦争が恒常的な状態になるという見通しをもたらしています。世界中で、戦争、ジェノサイド、強制移住、権力者による人権侵害、不公正な構造に起因する災害、憎悪と差別が、衰えることなく続いています。

とりわけ、ガザで犯された犯罪、ヨルダン川西岸における無制約で過激な暴力、継続的な占領、そしてパレスチナ人の自己決定権の否定といったことに対して、イスラエル当局の説明責任が組織的に欠如し続けていることは、国際社会が掲げる原則と根本的な道義に対する告発となっています。これは、いわゆる「ルールに基づく」国際秩序を破壊しようとする世界中の他の者たちを励ましています。パレスチナは、いまや私たちが「正義ある平和」への努力を吟味すべきレンズなのです。

絶え間なく苦しみをもたらす暴力と戦争の秩序を克服するために、私たちは何よりもまず、すべての人間の普遍的な尊厳に根ざした人権の優位を回復しなければなりません。平和な国際秩序は、領土の防衛に限定された国家安全保障という概念に代わって、人間の安全保障と生命の安全保障という新たな規範を確立することによってのみ築くことができると、私たちは確信します。これが正義ある平和への道であり、私たちの時代に私たちに委ねられた召命です。

気候変動の影響がはっきり示すように、地球が直面する生態系の危機は日ごとに深まっています。被造物全体がうめき、産みの苦しみを味わっています。この危機は、際限のない生産と際限のない消費への飽くなき欲望に突き動かされた産業成長文明に根ざしています。抑制のない終わりなき成長の追求は、生態系を破壊するだけでなく、人間社会内部の不平等をも深めています。貧しい人々とこの体制によって脆弱にされた人々は、何重もの苦しみを負っています。この生態系と社会の二重の危機は、あらゆる生命の安寧を脅かしています。それは私たちに、根本的な真理を認識するよう迫ります。すなわち、生態学的正義、社会正義、そして平和は切り離すことができないということです。美しさと良さをもって全世界を創造された神のみ旨に忠実に、私たちは被造物の保全の完全な回復に全力で身をささげます。

韓国の状況

私たちが集うこの朝鮮半島は、国際社会におけるイデオロギー的冷戦の断層線であり続けています。1953年以来、戦争の正式な終結ではなく一時的な停止である休戦体制が、73年間続いてきました。この未解決の戦争状態によって維持されてきた政治的・軍事的緊張は、韓国と北朝鮮の双方の社会に苦難と苦しみを与え続けており、南北対立をめぐるブロック間の対立は、北東アジアのみならず世界の平和を脅かしています。

南北両国は、相互尊重に基づく平和共存への道を見いださなければなりません。私たちは、対話の回復、軍事的事件の防止、戦争状態を終わらせ持続的な平和体制を築くための関係当事者間の対話を求めます。核の危険の低減は軍縮を待つことはできません。核・ミサイル能力のさらなる拡大を止め、それらを削減する措置は、脅威を減らし信頼を築く措置と並行して進められるべきです。私たちは、核兵器のない世界の一部としての、核兵器のない朝鮮半島に向けた決意を持ち続けます。この目的のために、私たちは祈り、寄り添い、平和のための実践的な活動に献身します。

韓国の平和の証しに触発されて

私たちは、地政学的な分断と対立のただ中にある韓国のエキュメニカルな平和の証しから励ましを得ています。今年が、1986年にスイスのグリオンで、WCCの主催のもと南北朝鮮のキリスト者が出会った歴史的な会合から40周年にあたることを思い起こします。冷戦のさなか、双方のキリスト者が顔と顔を合わせ、一つのキリストの体として聖餐を分かち合い、平和の業に身をささげることを誓いました。

これは、参加者のみならず、深い意義を持つ出来事であり、国際的なエキュメニカル共同体に伴われた、南北朝鮮のキリスト者の間の相互の出会いとディアコニア的協力という長期的な歩みを生み出しました。それは、帝国主義時代の遺産である冷戦秩序を克服し、より平和な世界へ向かう道を開くための決定的な一歩となりました。

分断が今なお続く朝鮮半島で、私たちは朝鮮半島と世界の平和への決意を再確認します。1986 年の出会いを通して築かれた約束、NCCK の 1988 年「民族統一と平和に関する韓国教会宣言」、そして「正義ある平和へのエキュメニカルな呼びかけ」で宣言された告白と和解の精神を新たにします。

正義ある平和への呼びかけ

共通の行動計画と派遣

私たちは、癒やし、和解、平和を育む教会となることを新たに願います。世界の平和を祈り、その実現への決意を新たにしつつ、以下のような共通の行動計画を掲げます。

1. 正義ある平和のための世界的なエキュメニカル行動

私たちは、ジャマイカでの WCC 国際エキュメニカル平和会議で示された「正義ある平和」のビジョンを、その相互に関連する四つの次元、すなわち共同体における平和、地球との平和、市場における平和、諸国民間の平和とともに再確認します。このビジョンがあらゆる場所で重圧下にあることを告白します。国々も教会も、私たちが召されているシャロームよりも、軍事化、排除、良識に反する核抑止の教義、そして際限のない成長という非論理へと引き寄せられています。それゆえ、世界の教会に、礼拝、教育、共同の行動において、正義ある平和への決意を新たにしようと呼びかけます。

私たちは、多くの紛争と破壊を引き起こしている、家父長制的で死をもたらす軍産複合体制に異議を唱え、その解体を求めます。

私たちは、「平和を語る」だけでなく「平和をつくる」ことに、平和の概念を脱植民地化することに、そしてこれらの課題に常に抑圧された人々、打ちひしがれた人々、十字架につけられた人々の視点から向き合うことに献身します。いかなる平和も、権力者の暴力によって犠牲にされた人々によって築かれない限り、真に公正で持続可能なものとはみなされ得ません。

a) 軍縮、非核化、技術の責任ある利用

私たちは、戦争は神のみ旨に反するものであることを確認し、武力紛争の停止と紛争の平和的解決の追求を求めます。

私たちは、以下のことに献身します。

- 核兵器禁止条約(TPNW)を推進し、核兵器の世界的廃絶に向けたエキュメニカルな協調行動を進めること。核兵器廃絶に向けた段階として、核リスクの低減、危機時のコミュニケーション、信頼の醸成、偶発的または意図せざる核のエスカレーションを防ぐ措置を提唱すること。
- 現存する核兵器庫と核使用ドクトリンがもたらすリスクを低減する緊急の必要性を認識しつつ、非人道的な核抑止の教義に異議を唱えること。
- 2014 年の WCC 中央委員会声明「核兵器のない世界に向けて」に沿って、核エネルギーの民生利用および軍事利用についての倫理的・神学的議論を深めること。
- 致命的自律型兵器の開発と使用、および核の指揮統制システムへの人工知能(AI)の組み込みに反対すること。
- 武力行使に対する意味のある人間による統制と、AI の兵器化を防ぐための国際ルールを提唱すること。
- 礼拝、学び、祈り、公的な提言活動を通して、軍縮と平和のために教会と共同体を教育すること。

b) 紛争の影響を受けた民族・共同体との連帯

私たちは、パレスチナ、ウクライナ、ミャンマー、スーダン、イラン、スリランカ、フィリピン、コロンビアを含め、戦争、占領、政治的暴力、人権侵害の影響を受けた民族と共同体と連帯します。

私たちは、以下のことに献身します。

- 国際法のもとでの、民族の自己決定権、主権、人間の尊厳を擁護すること。
- 倫理的な経済的行動の適切な形態を含め、正義と平和のための非暴力運動を支援すること。
- パレスチナ・イスラエル・エキュメニカル同伴プログラム(EAPPI)などを通して、エキュメニカルな同伴と国際的連帯を強化すること。
- 朝鮮半島のほか、キプロスやアイルランドなど、歴史的分断と紛争の影響を受けた社会の教会および平和運動との連帯を深めること。
- 移民の共同体を支え守り、難民の権利と福祉を擁護すること。

c) 正義、被造物、構造的暴力の解体

私たちは、貧困、経済的不平等、差別、人種主義、ジェンダー不正義、生態系の破壊が、平和を損なう構造的暴力の形態であることを認識します。

私たちは、以下のことに献身します。

- 気候正義と被造物の回復のための教会を基盤とした行動を強化すること。
- 経済的不平等、階級差別、人種主義、あらゆる形態の排除に異議を唱えること。
- ジェンダー正義と、女性と若者の意味ある参加とリーダーシップを推進すること。
- 特に「気候正義行動のためのエキュメニカルな 10 年」(2022～2034 年)の枠組みを通して、地域での行動を、社会的・経済的・生態学的正義のための国際的なエキュメニカルな提言活動と結びつけること。
- 教会およびエキュメニカル団体の評議会、委員会、代表団における意思決定の権限を若者と分かち合い、新しい世代に教会指導への道を開くこと。

d) 癒やし、和解、そして正義・和解・一致のエキュメニカルな巡礼

私たちは、平和を、戦争がないことにとどまらず、世代を超えて営まれる癒やし、和解、変革の過程として理解します。

私たちは、以下のことに献身します。

- 特に女性と若者とともに、地域の教会を通して、草の根の平和教育と行動の取り組みを確立すること。
- 戦争、植民地主義、暴力の影響を受けた個人と共同体のために、牧会的ケアと癒やしの場を提供すること。
- 共同の祈り、礼拝、神学的省察、そして教会と共同体を越えた出会いを強化すること。
- 紛争の影響を受けた場所と人々に教会が立ち会い証しできるよう、定期的なエキュメニカルな巡礼と交流を発展させること。

2. 朝鮮半島における正義ある平和のための共同のエキュメニカル行動

グリオンでの出会いから 40 年を迎えるにあたり、私たちは、冷戦そのものよりも長く続いた分断、そして平和にならなかった休戦という、朝鮮半島における固くかつ緊急の平和の課題に目を向けます。以下の行動は、上に述べた正義ある平和の約束を、礼拝と祈り、教育と同伴、公的提言という形で具体的な教会の営みとして表す、五つの取り組みです。

a) 朝鮮半島における戦争の防止と平和共存の推進

私たちは、朝鮮半島が世界で最も長く続く軍事的対立の地の一つであることを認識し、休戦協定が恒久的な平和条約へと転換されなければならないことを確認します。

私たちは、以下のことに献身します。

- 戦争の危険を高める敵対行為と軍事活動の停止を求めること。
- 休戦協定の平和条約への転換に向けて、エキューメニカルな平和外交を強化すること。
- 大韓民国(ROK)と朝鮮民主主義人民共和国(DPRK)の間の対話、信頼醸成、平和共存を促進すること。
- 朝鮮半島の持続可能な平和体制のための国際的なエキューメニカルな提言活動を展開すること。

b) 平和共存と相互尊重のための信頼構築

私たちは、朝鮮半島における平和共存が、世界的な核軍縮、核リスクの低減、北東アジアにおける協調的安全保障の構造と切り離せないことを確認します。

私たちは、以下のことに献身します。

- 核兵器のない朝鮮半島の実現を含め、世界的な非核化と核兵器廃絶に向けて継続的に取り組むこと。
- 1945年8月の広島・長崎の原爆投下によって被害を受けた韓国人被爆者の二世・三世で、今なおその健康影響に苦しむ人々に対する法的承認と政府の支援を促進すること。
- 戦争の防止と核リスクの低減を優先し、核・ミサイル能力のさらなる進展を止め、その漸進的かつ検証可能な削減を可能にし、最終的に解体と非核化に至る、朝鮮半島における段階的プロセスを支持すること。軍事的抑止と軍拡競争への依存を減らす地域的対話と協調的安全保障の取り決めに支持すること。危機予防とコミュニケーションの仕組みを強化すること。
- 政治体制と公式の国名の尊重を含め、ROKとDPRKの相互尊重を促進すること。
- 表現の自由、平和的な交流、和解のためのより大きな空間を求め、国家保安法第7条の廃止を提唱すること。

c) 人道協力、民間交流、生態系の平和

私たちは、平和が朝鮮半島に暮らす人々の日々の生活の中で経験されるものでなければならないことを確認します。

私たちは、以下のことに献身します。

- 離散家族の再会と人道協力の再開を支援すること。
- 特に若者、女性、宗教共同体、市民社会の間での民間交流を促進すること。
- 共有された生態学的・人道的リスクに関する協力が、信頼醸成と平和共存に寄与し得ることを認識しつつ、気候変動、災害対応、早期警戒、気候変動への適応、生態系の回復についてのROKとDPRKの協力を促すこと。
- 朝鮮半島における移民、多文化家族、DPRKを離れた人々、難民、その他の周縁化された共同体の人権と社会的包摂を支援すること。

d) 癒やし、和解、そして平和の場としての非武装地帯(DMZ)

私たちは、分断された社会において癒やしと和解の共同体となる教会の召命を確認します。

私たちは、以下に身をささげます。

- 定期的な DMZ 国際エキュメニカル平和巡礼を確立し、朝鮮半島を平和と和解のための国際的な巡礼の地として発展させること。
- グリオンでの出会いの精神に立ち、ROK、DPRK、そしてより広いエキュメニカル共同体のキリスト者の間での共同の祈り、礼拝、出会いを強化すること。
- 戦争と分断という集団的トラウマについて、証言、癒やし、神学的省察のための場をつくること。
- 教会と地域共同体が、世代を超えた和解の担い手となれるよう力づけること。

私たちは、ソウルで開催される 2027 年ワールドユースデーを、朝鮮半島と世界における平和のためのエキュメニカルで宗教間・世代間の取り組みを育む、摂理的な機会として受け止めます。

3. エキュメニカルな連帯の維持と国際エキュメニカル平和宣言の実施

私たちは、宣言から持続的な行動へと進むことを誓います。

私たちは、以下を行います。

- 本宣言の実施を監視、検証、推進するための国際的なエキュメニカル・ネットワークを設立する。
- WCC、CCA、NCCK、加盟教会、エキュメニカル団体、青年グループ、市民社会、学界、近隣の信仰共同体の間の協力を強化する。
- 同伴、平和教育、提言活動、研究、公的な証しのための実践的なプログラムを発展させる。
- 緊張を監視し、緊張緩和に寄与し、DMZ と国境地帯の現実を証しするための、朝鮮半島に関する国際エキュメニカルな同伴・監視プログラムを検討する。
- 参加する教会と共同体の間で、定期的な報告と優れた実践を共有する。
- 教会を「正義ある平和の巡礼者」として派遣し、装い、それぞれの共同体と世界において平和、正義、癒やし、和解を体現させる。

共通の召命

私たちは、教会および信仰共同体として、戦争と軍事化に抗い、いのちと被造物を守り、紛争と不正義の影響を受けた民族とともに立ち、癒やし、和解、平和共存の共同体を築く「正義ある平和の巡礼者」として、ともに歩むことを改めて誓います。

この宣言はそれ自体が目的ではありません。

それは、祈り、回心、同伴、公的な証し、そして具体的な行動への呼びかけです。

2026 年 9 月 11 日

世界教会協議会(WCC)
アジア・キリスト教協議会(CCA)
韓国キリスト教教会協議会(NCCK)
国際エキュメニカル平和協議会に集った
教会とエキュメニカル共同体